認定特定非営利活動法人 日本雲南聯誼協会（れんぎ）
【東京本部】〒162-0846 東京都新宿区市谷左内町 21-13 1 階
Tel：03-5206-5260　Fax：03-5206-5261
Email：yunnan@jyfa.org　URL：http://www.jyfa.org/
【雲南支部】中国雲南省昆明市人民東路 289 号集大広場 2011 室
Tel.+86-871-63311468　Fax.+86-871-63320658
http://www.facebook.com/NPO.JYFA　@jyfa
ブログ 雲南の郵便屋さん 検索
編集・発行人　初鹿野 惠蘭
印刷協力　昭和情報プロセス㈱　㈱技術評論社／デザイン Hope Company

Japan Yunnan Friendship Association
彩雲の南
第77号
発行日　2021 年（令和 3 年）8 月 15 日
会報

「25の小さな夢基金」第13期生89名
夢広がる待望の卒業式

「25の小さな夢基金」第13期生89名の卒業式が6月28日、昆明市女子中学で行われました。本来なら里親サポーターや会員の皆さんと現地の卒業式に出席しますが、新型コロナウイルスの影響で、去年に続き今年も参加できませんでした。このため、卒業式会場と里親サポーターの皆さん、会員の皆さんは、オンラインで参加しました。

▼89名の春蕾生が学び舎から巣立ちました

中国各地-アメリカ-日本各地をつないで

▲左より、清水雄輔顧問、初鹿野惠蘭理事長
蘇鑫日本雲南聯誼協会昆明代表処首席代表

午後零時(日本時間)、協会紹介動画が会場の大型スクリーンに映し出され、卒業式が始まりました。オンライン卒業式には愛媛、愛知、岩手、東京、中国は広州、蘇州、米国からもオンラインで総勢19名の方々にご参加いただきました。

冒頭、初鹿野理事長と昆明代表処の蘇鑫首席代表が祝辞を述べ、続いて協会の清水雄輔顧問は「大学に入ることだけが目的ではなく、何をするかが大事です」と励ましの言葉を贈られました。米国から参加した雲南出身の国連職員、李女史は「女性の困難は多いですが、女性には無限の力があるので、努力してその力を発揮してください」と卒業生を励ましました。また春蕾卒業生の劉慧娟さん(第4期生)からはビデオメッセージのサプライズがあり、春蕾の先輩として「しっかりと人生の計画を立て、大学生活を無駄に過ごさないでください。初心を忘れず、夢を抱いて、夢の実現のために努力を惜しまず、社会で役立つ人となり協会に恩返しをしてください」と後輩たちを励ましました。

▼オンラインで参加の里親サポーターの皆様

▼遠く離れた里親サポーターからの祝福メッセージに大感激

3年間の支援に感謝

卒業生の楊芋さんの代表挨拶では、里親サポーターの皆さんへの感謝とともに「支援者からのお手紙に励まされ、つらい寮生活を乗り越えることができました」と話しました。モニター越しではありましたが、皆さんの愛情にあふれた支援を改めて感じ、涙ぐむ卒業生もいました。

卒業式では里親サポーター皆さんからの最後のお手紙と贈り物を直接、春蕾生たちにお渡ししました。残念ながら里親サポーター皆さんにお会いする機会はありませんでしたが、お手紙や贈り物から里親サポーター皆さんの温かさを感じ、感動していました。

▲三年間の先生との想いが募る涙の別れ

主催:認定NPO法人日本雲南聯誼協会
共催:昆明市女子中学

支援者の声 ①

春雷生の卒業式 ―オンラインで参加して―

清水雄輔 顧問

会員・「25の小さな夢基金」サポーター

会場の大型スクリーンに映し出された清水雄輔顧問（左）と初鹿野惠蘭理事長

私は2015年に次いで2018年に、春雷生の卒業式に参加しました。今回とその前ではどこが違っていたかと考えると、オンラインであることのほかに、前回は春蕾生が全員それぞれの煌びやかな民族衣装で着飾っていましたが、今回は普段の制服で臨んでいました。それはそれで良かったのですが、少しだけ少数民族のアイデンティティ色が薄まっているように感じました。しかし、前回も今回も先生がお別れに際して一人一人にハグしながら別れを惜しみ、また、先生から励ましの言葉を受けて、春蕾生たちが皆涙を流しながら別れを惜しんでいたのは、誠に感動的でした。

小生からはお祝いの言葉として、「これからは自分の運命は自分で切り拓くという強い意志を持って、是非前向きにすべてのことに取り組んでほしい。もう一つは、留学や就職、あるいは訪日旅行というようなことで日本に来ることがあれば、日本雲南聯誼協会を通じて熱烈に歓迎します」と挨拶をしました。また、小生が応援していた春蕾生ともオンライン上で対面できて、とても良かったです。彼女たちがこれから素晴らしい人生を送ることを心から祈念しております。

支援者の声 ②

浅山乙男さん

会員・「25の小さな夢基金サポーター

約3,000キロも離れた昆明とオンラインでつながり会場の生徒たちの姿を見ることができたことは、とても素晴らしいことでした。これまで会ってみたいと思いながらも重い病気のために、とても昆明まで行くことができないことを残念に思っていましたが、このようにして生徒の姿を見たり声を聞いたり私の姿を見てもらったりできたことが、思いがけない喜びになりました。私にとってリモートでの参加は初めての経験だったので、うまくつながっているのだろうかとか操作がうまくできるだろうかとか不安でいっぱいでした。会場の生徒の皆さんが画面に映った時には感動で一杯になりました。実際に顔を合わせることができると、より互いのことを身近に感じることができます。ただ私は中国語が分からないので、直接会話できないのがもどかしいです。会話できるようになるにはとても時間がかかりそうなので、同時に通訳したり、字幕が出たりするようなリモート中継になったらいいなと思います。私には三人の女の子の孫がいます。サポートしている春蕾の生徒も実の孫と同じような感情が沸いてきます。だから高校の3年間だけでなく、その後の様子も気にかけています。初めて支援した1期生の生徒は志望大学に合格し、現在公務員として働いていることを知り、嬉しく思っています。希望通りに進学できない場合もあるかもしれませんが、サポーターとのつながりを思い浮かべ夢に向かって頑張って欲しいです。

「25の小さな夢基金」第13期生89名オンライン卒業式

支援者の声③

小野寺梨紗さん

会員・「25の小さな夢基金」サポーター

はじめに、今回のオンライン卒業式の準備をしていただいた日中両国の関係者の皆様に感謝申し上げます。コロナ禍にかかわらず、様々な理由で雲南昆明まで足を運べない支援者は少なくないと思われますので、今後も新しい生活様式のメリットとしてオンライン卒業式を続けてほしいと感じました。

私が支援した何菊英さんの成長した姿がスクリーンに映り、その声を聞いた時の感動は忘れることがないでしょう。初めて菊ちゃんのプロフィールを読んだとき、家庭環境の厳しさ、入学が遅かったこと、高校での学習はきっと大変で、卒業がやっとだろうと思いました。初めての手紙とイラストには純粋さと同時に幼さも感じ少し心配もしました。そんな私の心配をよそに、彼女は一生懸命学業に励みました。手紙の内容もしっかりとしたものになり、成長を感じました。常に感謝と学びを社会に還元したいという言葉がありました。将来は自分自身の力で日本を訪れたいとも話してくれました。私の周りには中国都市部から来日し、学費も生活費の心配もなく恵まれた環境で美食や娯楽に囲まれている留学生もいます。彼ら彼女らは日本で就職を試みて、あまり上手くいかないとすべてコロナ禍のせいにしています。一方、恵まれない環境にいても不満を言うこともなく、小さな出来事にも感謝を忘れず、ひたむきに夢に向かって努力する姿は美しく尊いですね。菊ちゃんは、彼女自身の力で人生を切り拓き成功すると信じています。なぜなら彼女はすでに豊かな人生を手にしているからです。学ぶことと働くことを大切に思える女性に成長しました。手紙を読み返してもあっという間の3年間でした。この3年間は私が菊ちゃんを励ますだけではなく、菊ちゃんの成長を通して私自身が励まされ多くのことを学びました。

卒業生の声

何菊英さん

支援者：小野寺梨紗 様

翻訳：渡部優美さん
（翻訳ボランティア）

光陰矢の如し。高校生活の三年間は瞬く間に過ぎ去りました。私たちは夢を実現するために集い、そして飛び立ちます。

今日、私たちは昆明市女子中学を卒業しました。クラスメートは感動の涙を浮かべて会場に入りました。国歌と校歌が響き卒業式が始まると、先生と生徒たちは厳かに耳を傾けました。遠く海外にいる日本の方々や華人華僑、日本雲南聯誼協会の皆さんも卒業式にオンラインで出席してくれました。

卒業式は感動的で、私は演台に立ち、支援してくださった小野寺梨紗様と面と向かってお話しました。胸の中に言いたいことは数え切れないほどありましたが言葉にできず、感動の涙を浮かべて静かに小野寺梨紗様の温かいメッセージを聞きました。高校三年間、1000を超える日々、ひたすら勉強に励み、精一杯頑張って進み続けた日々が脳裏をよぎりました。理想と信念が交わり、夢と感情がそこに加わりました。協会と支援者のみなさん、ありがとうございました。三年間、みなさんの至れり尽くせりの配慮と、黙って見守ってくださったことを心の奥にしまいます。皆さまが私たちの心の扉を開いて、私たちは海外の遥か遠くから親愛なる日本の皆さんが気遣ってくれているとを知り、世界からの愛を感じました。魯迅先生は「はるかかなた、無数の人々と私はつながっている」と言いました。人にバラの花を贈れば香りが手に残り、人を愛すれば温かさが心に残ります。

私たちを思いやり、寄り添ってくれたおじさま、おばさま方、ありがとうございました。支援してくださった日本の皆さまの関心に感謝申し上げます。

卒業は別れであり、もう一つの縁の始まりでもあります。私はしっかりチャンスをつかみ、思いやりを持ち、青春を無駄にしません。ここまで積み重ねてきたものを裏切らず、努力して人生の新しい旅に踏みだします。協会の皆さま、私たちへしてくださったすべてのことにあらためて御礼申し上げます。

ボランティアの声

譚盈盈先生　雲南大学滇池学院

6月28日、涼しい雨の中、春蕾クラスの卒業式に参加しました。新型コロナウィルス以来、初めてのボランティア活動でした。平日は大学の仕事で大変忙しく、ボランティア活動に参加するチャンスも時間もなかなかありませんので、今回このような活動に参加することができて、とても嬉しかったです。

私は小さい頃からずっと外国語に興味があり、大学時代にやさしくてきれいに聞こえる日本語を選びました。最初は日本人と交流することを目指して一生懸命頑張りましたが、勉強しているうちにはただ交流のためだけではなく、とても有意義なことだと気づきました。

協会とご縁があり、数年前から色々なボランティア活動に参加してきました。今回は新型コロナウィルスの影響でオンラインでの卒業式となり、通訳の仕事は、日本語の実践とよい練習になりました。また、今回の経験から人間の愛と絆も深く感じられました。

これからはわたし1人だけでなく、学生たちを是非、このようなやりがいが感じられる通訳ボランティア活動に参加させたいと思います。わたしたち日本語学習者一人ひとりはささやかな力に過ぎませんが、中日友好交流のために何かできれば嬉しいです。

少数民族の女子教育支援
「25の小さな夢基金」
2021年新入生
新規里親サポーター
募集中

子どもたちの未来をサポートしてみませんか？

今年も少数民族地域の女子高生約180名を支援することが決まりました。彼女たちを高校3年間、ご支援いただける里親サポーターを募集しています。皆様の真心による支えは、一生彼女たちの心に残る絆となって、成長を支える事になるでしょう。お申込みを是非お待ちしております。

詳細は：協会公式 HP http://www.jyfa.org ➡「教育支援」➡「25 の小さな夢基金」

お問い合わせ・お申し込み ⬇
東京本部事務局
（月～金、10～17時）
TEL 03(5206)5260
yunnan@jyfa.org

※「25の小さな夢基金」への支援は税額控除の対象になります。
詳細は協会公式HPの「25の小さな夢基金」のページをご覧ください。

「25の小さな夢基金」サポーター・廖海波さん

夢に向かって頑張る春蕾生と自分を照らし合わせて……

中国広東省在住の廖海波さんは数年前、協会と「25 の小さな夢基金」プロジェクトを偶然知ったそうです。「少しでも彼女たちの夢を叶えるお手伝いがしたい」と里親サポーターになり、これまで 4 名の生徒をご支援いただきました。中国の厳しい受験勉強の現状を知る廖さんだからこそ、彼女たちを支えたいという思いが一層強いようです。

皆様こんにちは。廖海波と申します。故郷は中国四川省ですが、広東省にあるアメリカ企業に 20 年以上勤めています。中国南西部の雲南省、貴州省、四川省の 3 つの省は文化や地形、習慣、言語が似ており、古くから「雲貴川は一家」という言葉があるように私は雲南省に好感を抱いています。

私が少数民族女子高生の教育支援活動に関わるようになったきっかけは、あるイ族が住む村に関する映像でした。2016 年、新京報という日刊紙が報じた「断崖村」が社会的に大きな注目を集めました。

その映像に映ってっていたのは、四川省西部の山岳地帯に住むイ族のアトゥラール村です。村の子どもたちは通学時、高さ 800 メートルもの断崖絶壁を命がけで登っていたのです。私はその映像を見て、涙ぐまずにはいられませんでした。そして少数民族の子どものために何かしたいと思うようになり、その後、偶然に日本雲南聯誼協会に出会いました。2017 年には初めて昆明市女子中学に行き、かわいい春蕾生たちにも会いました。

廖海波さん(右)と支援生徒の王 婭さん

ご存じのように、中国では良い大学に入れるかどうかは入学試験しかありません。激しい競争は幼稚園から始まっていといっても過言ではなく、「内巻（内輪もめ）」という流行語まで出来るような凄まじさです。今、都会の子どもたちは多くの時間を塾や習い事に費やしています。

支援生徒への直筆のお手紙

お手紙と贈り物

もちろん春蕾生たちにはそのような環境もないし、家族と暮らす時間も少ないかもしれません。例えば、以前支援した王娅さんはバス代が高いので冬休みと夏休みしか帰省せず、家に帰っても農作業を手伝わなければなりませんでした。学費のローンを返すため、大学入学後も週末はアルバイトをしていました。これは都会の子どもたちには本当に想像できない状況なのです。

春蕾生たちは自立心が強く、チャンスがあれば必ず大事にします。同時に、遠くても外の世界に彼女らは憧れています。まるで岩の割れ目に咲く花のように、ほんの少しの支えでも春蕾生たちは将来、世界にたった一つの花になると信じています。

この四年間、理事長をはじめ皆さんのご協力のお陰で私は充実して過ごせています。特に、春蕾生たちとの交流は私の人生の中で最も素晴らしいことです。私が彼女たちを支援しているにも関わらず、彼女たちを通して私は逆に感動させられ、自分らしい生き方を探すようになりました。

断崖村の暮らしは、外部からの注目が高まるにつれ大幅に改善されました。ですが、まだ知られていない貧しい村もたくさんあり、多くの人々が依然として非常に貧しい生活を送らざるをえません。

これからも春蕾生たちのために微力ながらお役に立ちたいのです。これが私の人生に生き甲斐を与えてくれる原動力の 1 つだと信じています。

雲南旅行での一枚

日本雲南聯誼協会設立 20 周年記念事業　主催：認定 NPO 法人日本雲南聯誼協会／共催：昆明市女子中学

「25の小さな夢基金」第10回「夢は叶う」講演会 ～夢の実現に向かう少女たちへのメッセージ～

春蕾生に伝えたい
～健康、楽しさ、やさしさを永遠に～

「夢は叶う」講演会は、雲南山岳地帯に住む少数民族の少女たちが、夢や希望を実現するための一歩を踏み出せるよう 2009 年に始まりました。昨年は新型コロナウィルス感染拡大で中止しましたが、今年は中国・蘇州在住で教育事業を手がける許峰顧問に講演をお願いしました。6 月 19 日、昆明市女子中学と日本をオンラインで結び、会場には春蕾生や政府関係者など約 300 名が集まりました。

今回のテーマは「励志篤行,做自己命運的主人（懸命に誠実に努力し、自らの運命の主人公となる）」。高校卒業後の進路や人生の意味、目標を達成する方法など「運命は自分の手で変えられる」ということをお話しいただきました。オンラインで参加した「25 の小さな夢基金」サポーターの皆さんにも春蕾生へ励ましの言葉をいただきました。

許峰顧問：1969年、江蘇省蘇州市出身。六芸塾創始者、日本雲南聯誼協会顧問。中国範仲淹研究会常務理事，蘇州市範仲淹研究会副会長兼秘書長，蘇州市儒学研究会副会長，蘇州弘化社慈善基金会副理事長，蘇州和合文化基金会監事，西交利物浦大学校外教官、警察、日本語通訳、外国企業役員、政府要員、国学講師等を歴任。

今回の「夢は叶う」講演会は、コロナ禍で例年のように初鹿野惠蘭理事長らを会場に迎えられませんでした。私は協会顧問として江蘇省から昆明へ向かい、「励志篤行、做自己命運的主人（懸命に誠実に努力し、自らの運命の主人公となる）」をテーマに講演しました。理事長をはじめ日本の支援者の皆さんと会場をオンラインで結んだ新しいスタイルの講演会でした。

初めて昆明市女子中学の先生や生徒と交流し、とても印象深かったです。先生たちは仕事にプライドをもって生徒を愛し、生徒たちは先生を敬い学業に励んでいました。陶紅校長は脚にけがをされていたにも関わらず、我々一行を会場で迎えてくださいました。陶校長は挨拶で春蕾生の進学率が高いことを紹介し、またグローバルな視野を持つために日本に留学するメリットを強調されていました。校長の言葉には彼女たちへの愛がにじんでいました。

講演前に、私は 8 階の会場に行きました。身なりがきちんとした春蕾生とすれ違うと、みんな微笑んで、「先生、おはようございます」と挨拶をしてくれました。生徒の礼儀正しさとやさしさが分かりましたし、心に楽しさと明るさが満ちていることも感じました。運動場では生徒たちがバスケットコートで遊ぶ姿を見ました。この光景から「健康、楽しさとやさしさ」という資質を感じました。

講演会では、生徒たちと、「弟子規（弟子の決まり）」の総括を朗読した時、全員が一堂に「弟子規、聖人訓（聖人の戒め）、首孝悌（まず親兄弟によく仕え）、次謹信（次に慎み深く誠実であり）、泛愛衆（広く人を愛し）、且親仁（親しい人を思いやる）」を朗読しました。また、范仲淹の『岳陽楼記』を読んでもらうと、全編を暗唱している声が会場から一斉に響いてきました。春蕾生たちの学習の基礎はとてもしっかりしており、先生を敬い勉強することがすでに身についていました。私が日本留学プロジェクトを紹介すると、彼女たちは好奇心と憧れの表情を見せました。彼女たちが勇気を出して日本でさらに勉強し、惠蘭理事長のように能力を備えて故郷の雲南省を支え、中日民間友好交流を促進してくれることを期待しています。

講演会後、春蕾生たちから日本留学に関することを聞かれました。家族や故郷を思う気持ちも感じられました。私は彼女たちの未来は無限だと信じています。なぜなら彼女たちは「健康、楽しさとやさしさ」という資質を持っているからです。このような資質を生涯にわたって持ち続け、努力を続けて自らの運命の主人公となり、中日友好交流の民間大使になることを願います。

顧問　許峰

2021 年 7 月 11 日　江蘇省蘇州市より

翻訳：鄭琳萍さん（翻訳ボランティア）

協会ボランティア通信
名古屋支部特集
連載 第㉑回
近藤釼一支部長

近藤支部長ご支援の第20校目・日中友好后山良洋小学校開校式(2009年6月)にて子どもたちと

名古屋支部と言えば、まず近藤釼一支部長のことを紹介しなければなりません。

二十年近く前に、ある偶然なきっかけで、近藤さんは協会の存在を知り、名古屋から東京本部事務所に訪ねに来て、初鹿野理事長と初対面ながら意気投合。以来、協会の様々な事業に賛同し、ご夫人やご子息のご理解とご協力を得ながら名古屋支部を引っ張ってきていただいております。

近藤さんは現役時代は小学校の教諭をされていたということもあって、教育の大切さを人より何倍もよく知っています。そこで、協会の小学校建設の“50の小学校プロジェクト”に両手をあげて賛同し、今まで小学校の建設にたくさんのご寄付をしていただきました。そして、ご家族と共に、少数民族女子高生支援の「25 の小さな夢基金」では 50 名ほどの春蕾生の里親サポーターとして、高校三年間の勉学を支援していただいております。わたしも里親サポーターをしながら翻訳ボランティアをしていますが、近藤さんの毎回の子どもたちへの手紙を読んで感動しています。実に心を込めて、子どもたちの勉強や生活を訊ねたり、自分の近況を報告したりしているからです。また、「ふれあいの旅」や春蕾生の卒業式に何回も遥々して参加していただきました。

近藤さんは知識が豊富で、人間愛に富んでいるばかりではなく、多趣味で多才な方でもあります。現役引退後の今は、大好きな無農薬野菜をご夫人と一緒に栽培し、道の駅などで販売したり、陶器を作ったり、サックスの演奏、絵画や書道の創作などにもとても熱心。大好きな日本酒も身体と相談しながら楽しんでいるそうです。

名古屋支部懇親会で

春蕾生たちと（2014年7月）

こんな近藤さんのことを私は心から敬愛し、人生の鏡にしています。いつも“近藤先生”と呼んでいますが、失礼ながら“近藤さん”と書かせていただきました。

董　紅俊

（日中青少年交流部長、会員、名古屋支部ボランティア）

連載　「25の小さな夢基金」
卒業生の今
Vol.10　皆さんからの愛を胸に 夢に向かって頑張っています

馬 妮さん
2017年入学 第12期生 回族

“春蕾”は希望を意味しています。私は家庭の状況があまり良くない農村の女の子です。中学卒業時に幸運にも学校を通じて“春蕾計画”を知り、昆明市女子中学に入学して心優しい里親サポーターの方と協会のおじさま、おばさまたちに巡り会えました。

高校生活三年間、多くの知識を学び、たくさんの助けがあって三年間の学校生活を終えることができました。私は昆明治金高等専門学校に進みました。ここでは今まで知らなかったサークル活動やボランティア活動に参加しました。また能力を磨くため委員会にも入り、何にもわからない状態からミスを犯さないようになって、自身の成長を感じることができました。

私のルームメイトやクラスメイトは親切で、一緒にいるのがとても好きです。今まで嫌なこともありません。また私は自分の専攻が好きです。タイの文化に興味があるので、タイ語を専攻に選びました。将来はツアーガイドになり中国の旅行者にタイの文化を紹介し、タイにも中国文化を伝えられたらと思います。

最後に協会の関係者、里親サポーターの皆さんに感謝したいと思います。皆さんの優しさで、友好には国境がないということを知りました。私は周りの人や見ず知らずの人にもっとポジティブに優しくしようと思います。それぞれの人の心に愛が溢れれば、世界はきっと美しいはずです。協会の私に対する期待に添えるよう沢山勉強し、自分の夢を叶えます。

翻訳：栗田久里子さん

（「25の小さな夢基金」サポーター・翻訳ボランティア）

アジア未来への人材育成プロジェクト

東京本部インターンシップ
熊 寛 さん

現在、コロナ禍で中国人留学生も授業はオンラインになり、アルバイトもできません。熊寛さんは「せっかく留学しているのに日本語を使ったり日本人と交流したりする機会が少ない。大切な時間を無駄にしたくないので、インターンとして日本語とパソコンをスキルアップしたい」と東京本部のインターンシッププログラムに参加しました。お母さんと協会会員の丁勇軍さんが知り合いで協会を知ったそうです。5 月 14 日から毎週金曜日、「25 の小さな夢基金」の手紙翻訳やパソコンを使った画像処理等を手伝っています。

協会でのインターシップを通じて、パソコンに関するいろいろな知識やスキル等を学べてとてもありがたいです。技術以外のことも学べて、それは人生の宝物になりました。貧しい子どもたちを見て、自分は彼女たちよりいい生活を送っているのだから、今の生活を大事にしてもっと頑張らないといけないと感じました。最も印象深かった作業は手紙の翻訳です。支援者の方たちが心を込めて準備したプレゼントや手紙は、触るだけで心の温かさを感じられました。支援者の手紙を読めば、子どもたちへの期待や優しさを実感できます。中国にいる子どもたちは手紙を読む時、海の向こうからの温もりをきっと感じるでしょう。その温もりを伝えられるよう、自らを励まし責任をもって翻訳を行っています。支援者の気持ちがきちんと伝われば、私にとって幸いです。

熊 寛（東洋大学社会学部社会学科 1 年）

ご報告

若い力で協会を変える 新理事2名・新顧問1名をご紹介します

第21回定時総会が5月29日に開かれ、新たに理事2名が承認されました。神立めぐみ理事は2004年に正会員登録されました。「25の小さな夢基金」里親サポーターで、翻訳ボランティアとしてもご協力いただいます。

松田雄馬理事は「アジア未来への人材育成プロジェクト」で、昆明で講演していただきました。

また、雲南民族大学の段鋼副学長を顧問にお迎えしました。段新顧問には以前より「アジア未来への人材育成プロジェクト」をはじめとする活動でさまざまなご協力をいただいています。

段 鋼 新顧問

雲南民族大学副学長

この度、顧問に任命され誠に嬉しく思っています。また、皆さんに信頼して頂けたことを心より感謝します。雲南省の少数民族地域に住む子どもたちや女性のために、協会は長年教育支援をしており、雲南人そして教育者の私は非常に心を打たれています。雲南民族大学は各民族の若者を育成することを目指す総合大学です。今後私は協会と共に、中日両国の青少年の友好交流をより深めるために努力してまいります。同時に、雲南と日本との文化、経済交流を強めるために尽力いたします。最後に協会の益々の発展を祈り、ご挨拶とさせていただきます。

神立めぐみ 新理事

この度、理事に就任いたしました神立と申します。2020年より会計を担当しております。皆さまの会費と寄付金で運営されるNPO法人として、透明性の高い会計処理に努めて参ります。

会計帳簿など、個人情報を除く全ての情報は事務所にて公開していますので、お気軽にお問合せ下さい。どうぞよろしくお願い申し上げます。

松田雄馬 新理事

株式会社オンギガンツ代表取締役・一橋大学大学院講師(非常勤)

現在、中国はデジタル技術を駆使し、本協会設立当初とは様変わりした発展を見せています。今、協会は「中国を支援する」という役割を見直す必要に迫られてます。こうした新しい時代において、私は、本協会が、中国に学び、日中の未来を共創するための架け橋になると確信しています。中国を含む国々にて事業創造を行った私自身の経験を踏まえ、本協会の未来を共創していきたいと思っています。

ご寄付のお礼

協会設立20周年記念誌『輝きを増すその先へ』ご寄付心より感謝申しあげます

協会20年の歩みをまとめた記念誌『輝きを増すその先へ』が皆様のご協力により、無事発行されました。会員の皆様には会報誌に同封させていただきました。ご覧いただいた方からは「写真がきれいで見ていて楽しいですね」「編集に携わった皆さんの苦労が伝わってきます」「活動年表を見て協会の20年の活動に感動しました」などの感想が寄せられています。また、たくさんの方々からご寄付いただき深く御礼申し上げます。ご寄付は教育支援活動のために大切に使わせていただきます。

■ご寄付いただいた方々（敬称略、受付順）

大﨑功雄、石原弘樹、大江真実、JR貨物労組東海地方本部、安藤哲雄、山下和之、中村有里子、峰尾勝美、鈴木良弘、坂本葉子、株式会社村上製本所、小松道彦、大泉國雄、安仁屋政武、川口邦夫、鴻谷光昭、歌川榮子、日経印刷株式会社、初鹿野惠蘭、矢野裕美子、清水嘉与子、荒川一郎、関晃典、寺内正己、近藤和馬、森信也、宋紅霞、市川克弘、近田将人、匿名4名(2021年7月30日現在)

協会設立20周年記念誌『輝きを増すその先へ』にご興味ある方は東京本部へお問い合わせください
東京本部　☎03-5206-5260(平10-17時)　✉yunnan@jyfa.org

雲南ニュース

今が旬! 雲南きのこをご存じですか?

この季節になると、市場にたくさん出回る雲南の特産を皆さんはご存じですか?雲南は「きのこの王国」と言われ、約250種類もの食用きのこが採れます。雲南産松茸はたくさん日本に輸出されていますが、実は現地ではポピュラーではありません。今回は雲南で特に親しまれている2種類のきのこをご紹介します。

ヤマドリダケ（美味牛肝菌）・・・中国の雲南、チベット、内モンゴル等に生育。肉厚で柔らかくて香りがよく、「ポルチーニ」としてイタリア料理等高級食材としてよく使われています。

干巴タケ（干巴菌）・・・イボタケ科の一種で、雲南省にだけ生育している固有種。生えたばかりの時は黄褐色で、熟すと黒褐色になります。カルシウム、たんぱく質等の栄養成分が多く含まれています。香りはビーフジャーキーのようで、雲南では高級品として取り扱われています。

昆明には、中国最大規模の野生きのこ専門市場があるほど、雲南のきのこは人気があります。来年コロナ禍が落ち着いたら、この季節、雲南へきのこをぜひ食べに来てください。ご来訪を心よりお待ちしております！

会員募集＆会費納入のお願い

ひろげよう支援の輪 新規会員募集中

1か月500円からできる教育支援
雲南少数民族の子どもたちに豊かな未来を!
協会を応援してくださる会員を募集します

正会員	一口　6,000円（500円/月）
賛助会員	一口12,000円（1,000円/月）
法人会員	一口18,000円（1,500円/月）

※法人会員は3口以上でお願いします

▼お申し込みは…
http://www.jyfa.org

認定NPO法人日本雲南聯誼協会へのご寄付は寄付金控除の対象となります。協会では随時、皆様からのご寄付を受け付けています。ご寄付は雲南少数民族への教育支援、協会運営のために大切に使わせていただきます。当協会は東京都より認定を受けた「**認定NPO法人**」です。認定NPO法人への寄付は税制優遇（寄付控除）が受けられます。

クレジットカードでのご寄付が可能になりました!

この度、皆さまからのご要望にお応えし、今まで以上に安全で快適にご支援いただけるようクレジットカード支払いを導入しました。

※クレジットからのご寄付も税額控除の対象となります。
VISA/MASTER、AmazonPay 対応
皆さまからのご寄付を心よりお待ちしております。

シンカブル　団体を探す

❶銀行振込
三菱UFJ銀行 目黒駅前支店 普通 1300380
特定非営利活動法人 日本雲南聯誼協会
（ﾄｸﾃｲﾋｴｲﾘｶﾂﾄﾞｳﾎｳｼﾞﾝ ﾆｯﾎﾟﾝｳﾝﾅﾝﾚﾝｷﾞｷｮｳｶｲ）

❷郵便振替
振替口座　00100-8-610935
加入者名　特定非営利活動法人 日本雲南聯誼協会
※ 振込手数料はご負担いただきますようお願いします。

理解は絆を強くする 挑戦! 中国百科検定⑧

日本中国友好協会主催の第10回中国百科検定は、今年11月27日（土）15時から50分間、北海道から九州までの全国主要都市で実施いたします。試験は公式テキスト『中国百科』と『中国百科検定問題集』、中国百科と問題集の『増補分新版』からの出題になります。試験申込期間は9月1日（水）から10月27日（水）までの2か月間、受験級や受験地を記入できる申込専用の郵便振替用紙を使ってのお申し込み、または中国百科検定ウェブサイトからオンラインでもお申し込みができます（「中国百科検定」でパソコン検索、またはスマホで下のQRコードをスキャンして中国百科検定サイトへのアクセスが便利です）。「理解は絆を強くする」。中国への理解を深め真の中国通になってもらうべく、皆さまからの挑戦を心よりお待ちしております。試験実施都市や各級のレベル、過去問題と解答は中国百科検定ウェブサイトで公開しています。

今回は試験範囲になります『増補分新版』文学・映画の部（3級）からの出題です。

Q　オバマ元大統領も愛読したという大人気SF小説『三体』の作者はだれ。
①劉慈欣　②白先勇　③金庸　④ケン・リュウ

質問の答え　①劉慈欣　たいへんよくできました

中国百科検定ウェブサイト

イベント情報

「25の小さな夢基金」日雲高校生国際交流会 ※予定
日時：10月19日(火)
場所：昆明市女子中学他

協会設立 20 周年記念事業 第16回「雲南省少数民族教育支援」チャリティーゴルフコンペ
日時：11月17日(水)
場所：津久井湖ゴルフ倶楽部
神奈川県相模原市

協会設立20周年記念事業写真展
日時：今秋
場所：中国文化センター
東京都港区虎ノ門3-5-1 37森ビル1F

協会イベントに関するお問合わせ
東京本部事務局
TEL.03-5206-5260（平日10～17時）
✉ yunnan@jyfa.org

イベント開催のお知らせ

ゴルフで少数民族教育支援
協会設立 20 周年記念大会

雲南省少数民族貧困児童教育支援 第16回チャリティーゴルフコンペ開催

協会設立 20 周年を迎えた昨年は新型コロナウィルス感染症拡大防止と皆様のご健康を守るため毎年恒例のチャリティーゴルフコンペを中止させていただきましたが、本年は感染対策をしっかりして開催させていただくことが決まりました。
皆様のご参加を心よりお待ちしております。

日時　2021 年 11 月 17 日 (水)
場所　津久井湖ゴルフ倶楽部 (神奈川県相模原市)
主催　認定 NPO 法人日本雲南聯誼協会
募集人員　60 名

お申し込み・お問合わせ
東京本部事務局
TEL.03-5206-5260（平日10～17時）
✉ yunnan@jyfa.org

『彩雲の南』へのご意見・ご提案をお待ちしています

- こんなコーナーがあったらいいな
- 雲南のこんな情報が知りたい
- こんなデザインにしたらいいのに

よりよい『彩雲の南』をめざして、皆さんからの貴重なご意見・ご提案をお願いいたします。

東京本部事務局
TEL.03-5206-5260（平日10～17時）
✉ yunnan@jyfa.org

編集後記

コロナ禍が衰える兆しのない中、東京五輪が開催されました。スポーツの魅力はコロナによる鬱屈した気分を吹き飛ばしてくれます。同時に思うのは、どこの国の選手も同じようにマスクをし、毎日検査を受けているということです。世界的に流行する疫病に対して国境は関係なく、人類は運命共同体です。五輪とコロナは、私たちが言葉の壁を越えて理解しあえること、同時に協力しなければ生き延びていけない家族なのだと再認識させてくれます。　（編集長・木本一彰）